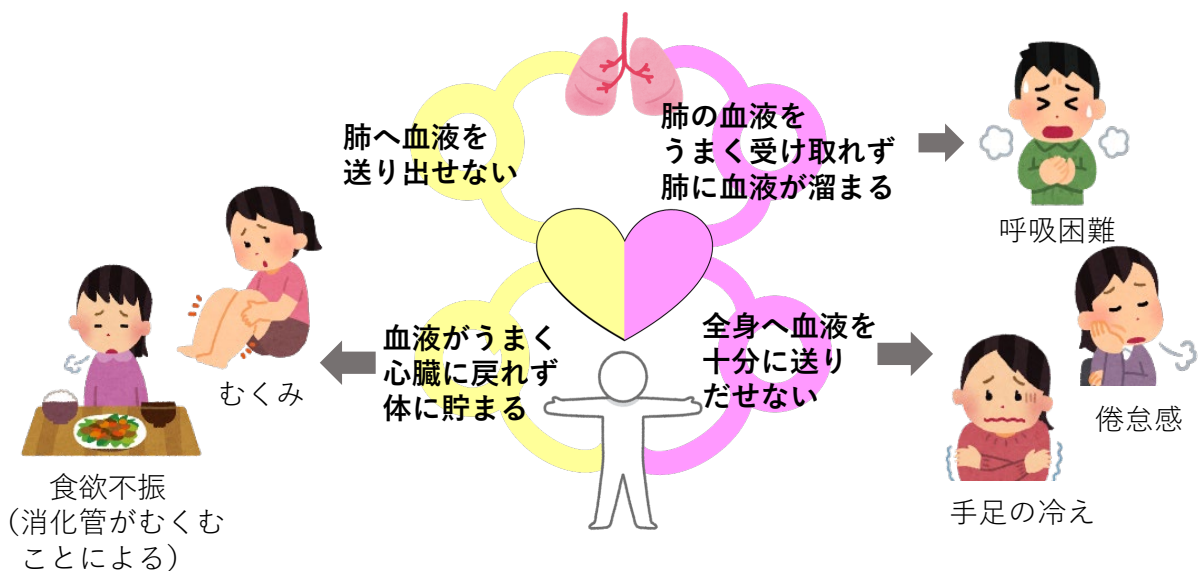


心不全のお薬について

心不全とは

心臓がポンプ機能としての役割を果たしていないために生じた病態です
ポンプ機能が働かないと、身体にうまく血液を送り出せないで色々な臓器に異常が起こります



心不全の治療には、症状や状態に応じて以下のようなお薬が使われます

- 症状を緩和して苦痛をやわらげる薬
- 心臓を保護して心不全の悪化を防ぐ薬
- 心臓を力づける薬

ご自身がどのようなお薬を内服しているのか確認してみましょう
お薬には、有効成分を示す「一般名」と製薬会社が独自につけた「商品名」の2種類があり、「一般名」は1つですが、商品名は会社ごとに複数存在します
ここでは一般名と主な商品名を掲載しています

症状を緩和して苦痛をやわらげる薬

息苦しさやむくみは心臓のポンプ機能の低下によって体液*が貯まることで起こります



足に貯まれば浮腫



肺に貯まれば息苦しさ

*体液：体に存在する液体のこと
血液や尿、組織液（細胞と細胞の間にある液体のこと）等

利尿薬は余分な水分を尿として体の外に出すことで体液の貯留を改善します

利尿薬

アゾセミド（ダイアート）、スピロノラクトン（アルダクトン）
トラセミド（ルプラック）、トリクロルメチアジド（フルイトラン）
トルバプタン（サムスカ）、ヒドロクロロチアジド、フロセミド（ラシックス）

硝酸薬は血管を拡げることで心臓の負荷を減らし、体内の血液の分布を改善することで、体液の貯留を正します

硝酸薬

一硝酸イソソルビド（アイトロール）
硝酸イソソルビド（ニトロール、フランドルテープ）
ニコランジル（シグマート）、ニトログリセン（ニトロダームTTS、
バスレーターテープ、ミニトロテープ、ミリステープ）

一旦元気になっても、また水分が溜まって
苦しくならないように
先生の処方通りにお薬を飲みましょう！



心臓を保護して心不全の悪化を防ぐ薬

心臓に負担がかかっている状態が長く続くと、心臓は肥大・線維化し、心臓の機能が落ちてきます（この変化をリモデリングといいます）
リモデリングが進むと心不全も悪くなっていきます
なので心臓の負担を減らして、リモデリングを防ぐことが重要です

ACE阻害薬やARB, ARNI, 抗アルドステロン薬の薬は心臓に負担をかけているホルモンを抑えることで心臓を守ります

ACE阻害薬

アラセプリル（セタプリル）、イミダプリル（タナトリル）
エナラプリル（レニベース）、カプトプリル（カプトリル）
テモカプリル（エースコール）、デラプリル（アデカット）
トランドプリル（オドリック）、ペリンドプリル（コバシル）
リシノプリル（ロンゲス）

ARB

アジルサルタン（アジルバ）、イルベサルタン（アバプロ、イルベタン）
オルメサルタン（オルメテック）、カンデサルタン（プロプレス）
テルミサルタン（ミカルディス）、バルサルタン（ディオバン）
ロサルタン（ニューロタン）

ARNI

サクビトリルバルサルタン（エンレスト）

抗アルドステロン薬

エプレレノン（セララ）、エサキセレノン（ミネプロ）
スピロラクトン（アルダクトン）、フィネレノン（ケレンディア）

β遮断薬は心臓を休ませることで心不全の悪化を遅らせます

β遮断薬

カルベジロール（アーチスト）、ビソプロロール（メインテート）



心臓の保護以外に血圧を下げる効果もあるよ

SGLT2阻害薬は腎臓に働きかけて尿中に糖を出すことで血糖値を下げる糖尿病の薬として開発されました
その後、心不全にも良いことがわかり、今では心不全の患者さんに多く使われています

SGLT2阻害薬

エンパグリフロジン（ジャディアンス）、ダパグリフロジン（フォシーガ）



元々は糖尿病の薬です。血糖を下げる効果があります
他の糖尿病薬と併用している場合は低血糖に注意しましょう！
調剤薬局で指導を受けてください



尿の中に糖を出す仕組みのため、尿中の栄養が増加し、菌が繁殖しやすくなります
尿路感染症に注意しましょう！
かゆみや排尿時の痛みが見られたら相談してください

sGC刺激薬は心筋や血管の機能調節に関わるcGMPという物質の生成を増加させることで心不全の進行を遅らせます

sGC刺激薬

ベルイシグアト（ベリキューボ）

効果を実感しにくいけれど、
飲み続けることが大事だよ！



心臓の収縮力を高める薬

倦怠感や息苦しさがなかなか治まらない患者さんには心臓の収縮力を高める薬を使って症状を解消します

強心薬は心臓の筋肉に作用して心臓のポンプ機能を強くします

強心薬は効果が高い反面、使いすぎると心臓に無理をさせてしまうこともあります

強心薬

ピモベンダン（アカルディ）